

令和3年第12回 吉田町教育委員会

- 1 開催期日 令和3年10月28日(木)
開会 午後 3時30分
閉会 午後 5時35分
- 2 場 所 自彊小学校 多目的室
- 3 出席委員 塚本 成男 北澤 雅恵
増田 真也
- 4 議場に出席した者の職氏名 教 育 長 山田 泰巳
学校教育課長 糸田 真男 生涯学習課長 内田 宏一
主席指導主事 水嶋 浩之 指 導 主 事 平井 奉子
学校教育課統括 山村 加奈子 学校教育課統括 山内 康弘
- 5 傍聴人数 0人

次 第 (会議録概要)

- 1 開 会
- 2 教育長の報告 資料No.1
- (1) 報告事項 10月の教育委員会の行事について
- (2) 町内教職員の状況 特になし
- (3) その他 GIGA スクール構想に向けたオンラインセミナーについて (10/23)
- 3 会議録署名委員の指名 塚本委員
- 4 議 事
- (1) 報告事項
- ア 生徒指導について 【非公開】 資料No.2
- イ 児童生徒の区域外就学について 【非公開】 資料No.2
- ウ 指定学校変更の許可について 【非公開】 資料No.2

(2) 協議事項

ア 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果（公表）について

【令和3年10月まで非公開】資料No.3

（委員からの質疑・意見）

- ・公表に当たっての見せ方だと思うが、各学校に対しては細かい分析があるのか。
⇒ クラスごとの国語と算数（数学）の相関関係、生徒の学力の分布を作っており、クラスの傾向も分析している。
- ・それは大学の先生から授業改善の具体的方向性やアドバイスも含めて入っているということでしょうか。⇒ いいです。以前のように点数だけとか、設問ごとの正答率だけで比べても、結局は対策が同じになる。結局、記述しかできなければ、書くためにどうするかのような形の狭い授業改善の分析になってしまうので、そうではなくて、全体としてどうしていくのか、授業改善を学校としてどう取り組んでいったらいいのかというところにつなげていかないと、授業改善にはつながらない。
- ・今回、中学3年生が全国平均並みにできているということで、その子たちは、経年で見ると、平成30年度の6年生のときには小学校ではあまりできなかったのに、今はできているというのは、なぜそうなったのか。大学の先生は、どう指摘しているのか。中学3年間の授業改善が現れているのか。小学校の時に蓄積したのが、中学になって花開いたのか。そのあたりの分析というのは、どう解釈したらいいのか。できる子がものすごくできるようになっているのか。⇒ 二極化している。
- ・なぜ二極化したのか。学校の授業改善なのか、家庭環境なのか。様々な要因があると思うが、あまり好ましくない形じゃないかと思う。⇒ 二極化をどう捉えるのか。例えば、すごい部活を頑張っていて、運動を頑張っている子がいたとして、それはそれでいいんだと。成績が良いというわけではないけど、そういう生き方をする子がいたという二極化だった。こうした二極化を学校がどうするのか、教育委員会としてどうするかなのだけれど、そういうのもあるという話は大学の先生が言っていた。それでもやっぱり成績は上げていかなければいけないと思うので、なぜこうなったのかは、検証していく必要があると思う。
- ・二極化の考え方は、中間層を伸ばしたという考え方もできる。
- ・それを中学校がどう認識して、今後これをどう生かしていくかを聞かせてもらえる機会があればお願いしたい。⇒ なかなか要因分析は、難しいかもしれない。吉田町としてこういう取組をしたのだという、徹底してやったものが言えれば、それが要因だと言えるかもしれないが、分析というのは本当に難しい。静岡県の子どもの小学校の成績が、全国平均に比べてあまり良くなかった。以前、順位的なものを出したが、それがすごく良くなかったのに、中学校にいくと静岡県はすごく成績

が良い。トップクラス。なぜかという分析が、なかなかその時にできなかった。少なくとも授業にどういふふうに入力してやっているかという教職員の意識の問題と、子供の意識の問題で違ってくるのだらうと思う。

- できる子とできない子がいる。この2段が好ましくないというのは、従来から大学の先生にも言われていて、授業改善がしにくいということ。真ん中が低い方に行っていたならば、上げていけばいいとなるが、両端だと、どこを対象に授業を組み立てたらいいか難しいという話で。まずはこう上げていくという話が、ベネッセの分析とか、大学の先生の話だと思ふのだが。ある程度分析を受け入れて、良かったとして緩めずに、足りないところを見つけ出して、より良いものにしていくということをしていってもらいたい。
- 今回吉田町学調をやめたので、小学校から経年で見ることではできなくなるが、その分析、経年で見えた場合に、その成果があったかどうかというのは、問われるのではないかと思う。小学校の時頑張っていたので、6年生の時にはできなかったが、中学3年生になって花開いたという言い方は、中学の授業が良いから成績が良いと言うよりも、小学校の時にずっとやってきたことが、基礎学力向上につながってきたという言い方はできないのか。いろいろな取組をしてきて、学力向上に対して、それが無駄だったのではなくて、成果があったと思いたい。それで、今後どうするかということだと思ふ。
- 5ページの4番の結果の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の割合が高いとか、参加している子が高いというのは、アピールしてもいい点。この地域の人からしてみると、最近子供が外にいないとか、行事に参加していないとか意見があるのですが、こうやって見ると、まだまだそういったものが、吉田町は大事にされていると思ふ。ここも少しアピールしていきたい部分と感じる。
- 総合的な学習の時間で、吉田探究を進めていることも、すごくアピールポイントになるのではないかというのが、この数字に出ていると思ふ。地域の人も、これを見たらうれしく思ふのではないか。子供のアンケート結果なので、学級の時間で自分の意見を言えたりとか、表明できたりしているということに関して、子供がちゃんと自分で評価ができているというのも、今一番大事なところなので。子供たちが本当にそう思ふって意思を出してくれていることで、いい結果が出たと感じている。

イ TCPトリビンスプランについて

資料No.4

(委員からの質疑・意見)

- とても意味のあるアンケートで、すごいことだと思ふ。
- 保護者の意見としては、エアコンや給食も含めて全て評価してくれていると感じた。

5 その他

- ・教育委員の退任及び就任について
 - ⇒ 大石敦史委員（10/31 退任）・中村成宏委員（11/1 就任）
- ・今年度の教育委員会視察について
 - ⇒ コロナ感染の状況が落ち着いていないため、本年度の視察は中止
- ・今後の教育委員会等の予定について

6 閉 会